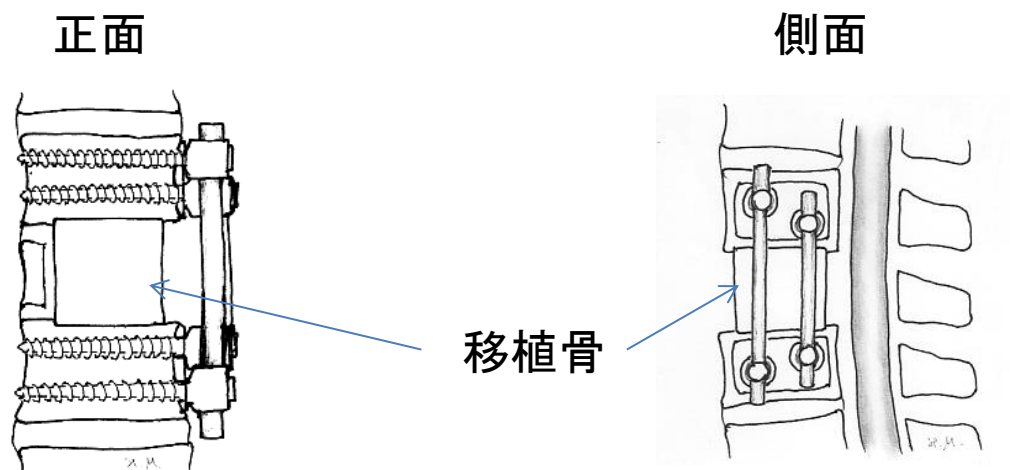


* 胸椎、腰椎前方除圧固定術

化膿性脊椎炎 脊椎カリエスなどでは化学療法が無効であったり麻痺が出現した場合に手術が必要になります。椎体、椎間板の病巣搔爬を十分に行う必要があるため前方除圧固定を行います。感染性疾患の場合は原則としてスパイナルインスツルメンテーション(S.I)は後方から行っています。

胸椎椎間板ヘルニア、胸椎後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍、脊椎骨折などでは前方除圧、骨移植を行い、さらに前方にスクリュー、ロッドシステムを用いたインスツルメンテーションを行うことが多いですがそれぞれの症例に対して最適と思われる術式を選択しております。



腰椎前方除圧固定術+S.I